

會 務

土木學會誌 第十四卷第二號 昭和三年四月

○昭和三年一月二十八日大阪市北區中二丁目九番地電氣協會關西支部に於て、本會關西支部第一回總會を開き、岡野會長、井上副會長、黒河内常議員、關西支部役員外會員、准員約四百名出席、眞田支部長より關西支部創立に關する經過報告あり、次で岡野會長より祝辭ありたり。總會終了後同所に於て晚餐會を催し二百三十名の出席あり、盛會裡に散會せり。創立經過報告及祝辭下記の如し。

土木學會關西支部第一回總會

關西支部創立經過報告

關西支部長 眞 田 秀 吉

諸君土木學會は創立以來拾數年を経過致しまして今日の盛況を見るに至りましたるは、誠に欣幸に堪へざる次第で御座います。申す迄もなく土木事業の進歩發達を圖るためには、我々相互の智識を涵養し、或は種々なる問題に就て調査研究を致し、時には會合して隔意なき意見の交換をなし以て相互の意志の疏通を圖る必要があるのであります。これがためにはどうしても一つの機關を必要とするのであります。御承知の如く本土木學會では年々會誌を發刊するの外東京附近で講演會を催し又は見學旅行を開催されて居るので御座います。けれども近畿地方に住居して居ります吾々としては何分遠方で御座いますので、會誌を通じて狀況を知るの他には會合に出席してその模様を承ると云ふ折は如何にも乏しいので御座います。之は夙に遺憾に存じて居つたので御座います。

然るに近畿地方に於ける會員數は約五百名もあらうと云ふことで御座います。して又一方學會の定款には地方に支會を設くることを得ることになつて居ります。そこで昨年八月頃から二三の有志が集りまして當地に支部を開設してはどうかと云ふ話が出まして、これに段々賛成者が加はりまして昨年の十月二十六日に取敢えず有志三十五名程が發起人として集り、相談致しました處が満場一致で支部を設けたらよいと云ふことになりましたので、東京の本會へ之を創立して貰ひたいと云ふ交渉を開始する爲支部開設の建議書を提出したのであります。本部に於ても至極賛成して下さいまして、同月の役員會で大阪に支部を設置すると云ふことを決議し、これに要する基金の募集その他支部創立に關する一切の事務を坂出鳴海君、後藤佐彦君それと私に委囑されました。之によりましてその後發起人會又は實行委員會と云ふものを數度催しまして、維持基金の募集或は會則の制定其の他に付色々相談致しました。基金は第一に正會員諸君から應分の寄附を仰ぐと云ふこと、第二

には土木事業に關係のある會員以外の方即ち會社或は土木事業に御關係のある物品を販賣されて居る方又は工事の請負をされてゐると云ふ様なお方に御依頼致したので御座います。斯様に御願ひ致しました處が正會員百四十五名の方も殆ど全部御賛成下さしまして案外早く基金が集つた様な次第であります。之は如何に近畿地方の會員が、支部の設立を望んで居られたかと云ふことを證するものであると思ひます。會員外の方も此の舉に非常に御賛成と御同意を下されまして少なからぬ金圓を御寄附下されました。既に御寄贈のすみましたものだけでも壹萬九千圓以上に上りました之に豫約のものを合計致しますと、約貳萬貳、參千圓以上になります。それから支部を開設しますと第一に會場を要するので御座いますが、之はなかなか良い所が見當らなかつたのでありますが、この電氣協會に御依頼した處幸に御快諾を得まして殆ど眞似事の様な使用料を以て會館を使用することが出来る様にして頂きました。これは非常に幸で御座います。そう云ふ具合に會員諸君竝に土木事業に關係のあるお方及電氣協會の方がこの創立に御同意下さつて、斯く今日この會を見ることが出来ましたので、この事に就いては皆様に對して發起人として非常に感謝に堪へない處で、厚く御禮申す次第で御座います。それから支部の會則につきましては發起人會で原案として作つたものを、本部に提出致しました處、本部に於きましても慎重に考究されまして昨年十二月に本部の方で決定して下さいました。今日お手許へ差上げて置きましたパンフレットに會則が出て居ります、朗讀は致しませぬがこの會則には第一回の役員は發起人會での選舉できめることになつて居ります。これは矢張本部もそうであつたので御座います。この會則に依りまして十二月廿日に發起人會を開催致しまして選舉を致しました處、此處に掲示して置きました如く十二名を、その内一名を支部長に、他を常議員と致しまして當選せられたのでそれぞれ本部に手続きを致しまして承認を仰ぎまして皆さんに御承認を願つた様な譯であります。それから平素の事務には常務役員と致しまして幹事長には後藤佐彦君、會計幹事には平瀬三雄君、庶務幹事には鈴木義一君に願ふことに致しました。會場には種々の事務も御座いますので、これは電氣協會の書記長上田令吉君にお頼み致しました處、御快諾を下さいました。それから本年の事業をどう云ふ風にやるかと云ふことだけを簡単に申し上げたいと思ひます。これは今計畫中で御座いますが、本日の大會の外に一回講演會を催して見たいと思ひます。今日の様な講演會であります。もう一回通俗講演會を開きましてこれには活動寫眞等を入れまして一般に公開して土木智識の普及をはかるため斯う云ふことをやつて見たいと思ひます。見學旅行は二回に致しまして一回はその日歸りの旅行で一回は一泊旅行を致したいと思つて居ります。その他に數回簡単な晚餐會を開きましてそこで隔意なき意志の疎通をはかりたいと思つて居ります。又この他規定にあります通り調査研究もしたいと思ひます。これは本部でも時々おやりになつて居る様であります。

土木學會關西支部第一回總會



岡野會長の祝辭



眞田關西支部長の挨拶



（土木學會誌第十四卷第二號附誌）

晩餐會

府なり、市なり、會社なりに、土木に關係する問題が起つてその調査研究のお頼みがあれば、吾々會員の専門の方が集つて、そして一つこれを研究しようじやないかと云ふ希望もありましたので斯う云ふこともやつてみたいと思ひます。以上は大體支部の創立の經過で御座います。本支部が斯様に順調に十月頃から始めまして今日まで何等の障害もなくして今日の會を見るまでに至りましたことは、近畿地方の會員及事業關係の方々の御後援によるものでありまして又本部に於てもこの創立に非常に御力を添へて頂きまして萬事を好都合にお進め下さいましたことは、非常に有難く重ねて御禮を申上げる次第で御座います。以上が經過報告であります。大體これで御承知を願ひます。(拍手)

祝 辭

土木學會長 岡 野 昇

諸君。本月二十一日東京に開れました土木學會の總會に於きまして、不肖私は會長の重任を汚すことになりました。その後旬日を経ずして、本日此處に土木學會の發展の表徴である關西支部の發會式に参りまして、私が此處に祝辭を述べさせて頂くことは、最も光榮に存する次第で御座います。抑々土木事業は、一國の文化産業の淵源であり且表徴であると思ふのであります。即ち陸水の交通の便なくして、産業の發達するものではないのであります。又これが發達の程度を見まして、その國の産業の發達の程度如何を知ることが出来るのであります。誠に一國の盛衰の上に於て土木事業は重要な要素であります。官公私を通じまして、土木事業に支出致します金額から見ましても、年額十數億の巨額にのぼることと思ひます。斯様なものは他の工業に匹敵するものはなからうと思はれます。然るに御承知の如く我國は決して富裕の國では御座いませぬ。この巨額を最も有効に使用するか否かはこの國の消長に關する所大なるものがあると思はれます。

この責任者は吾々土木事業に携つて居る者の双肩にかゝつて居ることを常に覺悟しなければならぬのであります。土木學會は創立以來此處に十四年目に當ります。この會員も三千に達する實状にありますが、會員諸君は土木に關係ある方面に夫々活動して居られまして、今日まで國家に貢獻する處は決して少くないと思ひます。この關西方面の會員は非常に澤山ありまして、夫に活動されて居られますので東京へ御のほりになる餘暇をお持ちになることはないのであります。そこで此處に關西支部を設けられましたことは今後この關西地方の土木界に著しき進歩を見ることであらうと確く信じてゐるのであります。

どうぞこれに依りお互に智識の交換をなし、又土木に關する研究をなし、益々土木學會の當初の目的を達成されんことを希望して已まない次第であります。聊か所感を述べまして祝辭と致します。(拍手)

○同年二月十四日編輯委員會を開き、黒河内編輯委員長、鈴木、田中、平山、三浦の各委員及菊池囑託出席會誌編輯上に就き協議を爲せり。

○同年同月二十一日役員會を開き、岡野會長、井上、中川兩副會長井上、大岡、加賀山、黒河内、中村、福田、牧野、米山の各常議員、市瀬、古市、古川の各前會長、丹治、村兩主事出席、岡野會長議長席に着き下記事項を決議せり。

△本年度催すべき視察旅行は五月十二日より同十四日に亙り北陸黒部地方を視察すること。

△三月下旬講演會を開催することとし鐵道局技師鷺谷瀧雄氏に防雪設備に関する講演を依頼すること。

△廣告掲載規程其他制定方に関しては主事に一任すること。

△關西支部昭和三年度豫算を承認すること。

△關西支部維持基金保管運用方に関しては調査の上會長に一任すること。

△萬國工業會議論文委員選出に就ては會長に一任すること。

△工學會より照會に係る英國インスチテューション・オブ・シビル・エンジニアース百年記念式へ代表參列者としてはロンドン駐在の會員永田民也君を煩はすを便とする旨回答すること。

△日本ポルトランド・セメント同業會より申出に係る震害調査報告書中より記事轉載方の件を承認すること。

△東京帝國大學地震研究所より申出の會誌寄贈方の件は同所々報と交換することとして承認すること。

△國產振興愛國同盟會より同會贊助員として入會方照會の件は謝絶すること。

其の他會務に関する事項

○同年三月七日編輯委員會を開き、黒河内編輯委員長、鈴木、田中、高橋、平山、古川、三浦の各委員及菊池囑託出席會誌編輯上に就き協議を爲せり。

○准員高田佐市君は「米原」と、同野呂禮三君は「大岡」と、同宮司眞澄君は「長野」と何れも改姓せられたり。

○下記諸君は退會せられたり。

				會 員								
上	田	柳	一君									
				准 員								
岩	尾	滿	明君	小	田	一	郎二君	大	久	保	正	治君
兼	松	久	夫君	助	川	廣	美君	水	田	幸	義君	

森 親 泰君

○昭和三年一月十六日以降同年三月十五日迄に於て入會を承認し名簿に登録したるもの下記の如し(○印は轉格者を示す)

				會 員 (八名)			
武 智 正 次 郎君	成 瀬 喬君	青 木 精 一君					
小 川 信 次君	柴 田 辰 之 進君	森 田 虎 起君					
末 森 猛 雄君	○内 海 三 郎君						
				准 員 (二十六名)			
古 賀 正 巳君	○鄭 在 英君	青 柳 勝 治君					
大 竹 正 美君	添 田 方 平君	三 浦 久 藏君					
駒 田 普 明君	奥 田 禎 文君	小 松 千代五郎君					
井 戸 川 林 造君	片 岡 武 雄君	調 陽 一君					
大 矢 孝 一 郎君	○阿 部 鐵 藏君	○岡 田 正 一君					
梶 川 政 治君	河 原 忠 次君	齋 藤 新 六君					
田 中 義 治君	立 木 銀 三 郎君	高 橋 與 四 郎君					
○樋 田 廣 正君	山 鹿 常 吉君	山 田 秀 三 郎君					
江 田 良 治君	○内 川 龍 雄君						
				學 生 員 (十一名)			
内 山 幸 和君	秋 草 勳君	古 河 順 治君					
近 藤 鏈 武君	桑 原 進君	山 尾 茂 夫君					
有 賀 晴 夫君	小 川 武 雄君	高 橋 茂 君					
中 村 義 治君	土 屋 春 義君						

○昭和三年一月十六日以降同年三月十五日迄に於て寄贈又は交換を受けたる雜誌其の他下記の如し。

寄贈を受けたる分

製鐵所研究報告 No. 1, 2 號	2 冊	製 鐵 所 研 究 所
土木建築資料通信第 143, 144, 145, 146, 147, 號	5 冊	土 木 建 築 資 料 通 信 社
工業之大日本第 25 卷第 1, 2 號	2 冊	工 業 之 日 本 社
帝國學士院紀事第 3 卷第 10 號及第 4 卷第 1 號	2 冊	帝 國 學 士 院
電氣製鋼第 4 卷第 1, 2 號	2 冊	電 氣 製 鋼 研 究 會
セメント界彙報第 179, 180, 181, 182 號	4 冊	日 本 ポ ル ト ラ ン ド ・ セ メ ン ト 同 業 會

滿洲技術協會誌第 23 號	1 冊	滿洲技術協會
土木試驗所報告第 9 號	1 冊	內務省土木試驗所
東大工學部紀要第 17 冊第 7 號	1 冊	東京帝國大學工學部
ポルトランド・セメント・ペースト、モルタル及 混凝土の使用に就て	1 冊	會員 吉田彌七君
シビル第 7 卷第 2 號	1 冊	シビル社
工事畫報第 4 卷第 2, 3 號	2 冊	工事畫報社
第二回改良講演會記錄	1 冊	鐵道省工務局
名古屋工業會々報第 58, 59 號	2 冊	名古屋工業會
東洋建築材料商報第 18 年 2 月號	1 冊	東洋建材商報社
壁體及防火戸耐火試驗報告書第三輯	1 冊	復興局建築部
工學部紀要第 5 冊第 1 號	1 冊	九州帝國大學工學部
建設工事現場業績第 1 輯	1 冊	鐵道省建設局工事課
獨逸機械製造會社要覽	1 冊	イリス商會
工業二月號	1 冊	大阪工業會
工學彙報第 2 卷第 5 號	1 冊	九州帝國大學工學部
工業と社會第 2, 3 號	2 冊	東京工業會
復興局技術試驗所報告自第一編至第八編	8 冊	復興局技術試驗所
熊本工業會誌第 1 號	1 冊	熊本工業會
日立評論第 1, 2 號	2 冊	日立評論社
工學部紀要第 4 號	1 冊	北海道帝國大學工學部
工學報告第 7 卷第 2 號	1 冊	東北帝國大學工學部
三菱電機第 4 卷第 3 號	1 冊	三菱電機會社神戸製作所

交換の分

工業化學雜誌第 31 編第 1, 2, 3 號	3 冊	工業化學會
同上歐文	3 冊	同上
電氣學會雜誌第 474, 475 號	2 冊	電氣學會
造船協會雜纂第 70, 71 號	2 冊	造船協會
日本礦業會誌 Vol. 44 No. 513, 514 號	2 冊	日本礦業會
日本建築士第 2 卷第 1, 2 號	2 冊	日本建築士會
帝國鐵道協會々報第 29 卷第 1 號	1 冊	帝國鐵道協會
建築雜誌第 42 輯第 505, 506 號	2 冊	建築學會

港灣第 6 卷第 2,3 號	2 冊	港 灣 協 會
業務研究資料第 16 卷第 1 號	1 冊	鐵道省大臣官房研究所
工政第 99, 100 號	2 冊	工 政 會
鐵と鋼第 14 年第 1, 2 號	2 冊	日 本 鐵 鋼 協 會
工業要録第 2 號	1 冊	工 業 要 録 發 行 所

會 員 有 吉 大 藏 君

會員有吉大藏君は昭和三年一月逝去せられたり、本會は此の訃音に接し弔詞を靈前に呈し哀悼の意を表したり。

會 員 小 原 光 信 君

會員小原光信君は昭和三年一月二十六日逝去せられたり。本會は此の訃音に接し弔詞を靈前に呈し哀悼の意を表したり。

會 員 青 木 壽 君

會員青木壽君は昭和三年四月十三日逝去せられたり、本會は此の訃音に接し弔詞を靈前に呈し哀悼の意を表したり。

准 員 森 田 焜 次 君

准員森田焜次君は昭和三年四月逝去せられたり、本會は謹んで哀悼の意を表す。